



気象庁

大阪管区気象台

Osaka Regional Headquarters, JMA

報道発表

いのちとくらしをまもる
防災減災

令和6年2月9日
大阪管区気象台

広島、高松地方気象台における目視観測通報を自動化します

これまで広島、高松地方気象台では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、職員が目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程(見通しのきく距離)を観測してきました。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となるなどの技術の進展を踏まえ、広島、高松地方気象台において、目視観測通報を自動化します。

1 変更予定日

令和6年3月26日(火)

2 大阪管区管内で自動化の対象となる気象官署

・中国地方

広島地方気象台

・四国地方

高松地方気象台

※彦根、京都、神戸、奈良、和歌山、鳥取、松江、岡山、徳島、松山、高知各地方気象台は令和2年2月3日に目視観測通報を自動化しています。

※大阪管区気象台では、従前どおりの目視観測通報を継続します。

3 変更点等

別紙のとおり

問合せ先：気象防災部観測整備課 秋山・尾上

電話 06-6949-6302 (内線 5493、5491)

広島、高松地方気象台における目視観測通報の自動化について

職員が目視により、晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測した結果を、毎日定められた時間に気象観測通報として発信しています。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した、総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、広島、高松地方気象台における観測のあり方について、見直しを図りました。

このため、令和6年3月26日（予定）から、通報のために職員が目視により行っている観測を自動観測へ移行するとともに、一部の大気現象等の観測を終了します。

なお、大阪管区気象台管内の彦根、京都、神戸、奈良、和歌山、鳥取、松江、岡山、徳島、松山、高知各地方気象台では令和2年2月3日に目視観測通報を自動化しています。大阪管区気象台では、従前どおりの目視観測通報を継続します。

■ 自動観測に移行する観測種目

- 以下赤枠内の大気現象については、職員による目視観測から自動観測に変わります。
- 視程（見通しのきく距離）も、新たに設置する視程計を用いた自動観測に変わります。
- 雷は、これまで職員が目視や聴音により観測していましたが、雷監視システム（LIDEN）と気象レーダーのデータを用いた自動観測に変わります。

〈今後、自動で観測する天気や大気現象〉

晴、曇、雨、雪、みぞれ、霧、もや、煙霧、雷

■ 目視観測通報の自動化に伴い観測を終了するもの

● 天気

快晴、薄曇

● 大気現象

現象の分類	目視観測通報の自動化に伴い観測を終了する大気現象
大気水象	雪あられ、氷あられ、ひょう、細氷、凍雨、霧雪、着氷性の雨、ふぶき、しぶき、霜 ^(注) 、結氷 ^(注) 、竜巻、積雪、冠雪 ^(注)
大気じん象	黄砂、煙、降灰、風じん、砂じん嵐、じん旋風
大気光象	かさ、光冠、彩雲、にじ
大気電気象	電光、雷鳴

(注)

寒候年（前年8月～当年7月）に初めて観測する霜、結氷、冠雪は従来どおり初霜、初氷、初冠雪として記録します。

● 雲

雲量、雲形